

# 現行指標・水準を達成するための取組の評価・検証について(速報値)

望ましい富士登山の在り方		指標	登山口	実績			水準 (2024年 までの 目標値)	これまでに実施した取組	評価・検証
視点	区分			2021	2022	2023 (速報値)			
十七世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承	頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること	伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休憩してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	全体	80.9%	88.8%	87.6%	80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>山小屋で休息して山頂を目指す啓発を含む動画による広報</li> <li>弾丸登山の自粛や山小屋休息の推奨</li> <li>令和5年度は、弾丸登山禁止のチラシ・ポスターを作成し、外国人登山者にも呼掛け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画期間を通じて改善傾向。R3年度の「新しい富士登山マナー」の設定・普及と山小屋の完全予約制導入も寄与したと考えられる</li> <li>R5年度までは水準を達成したが、今後、訪日外国人等の登山者数増加により、山小屋の収容力オーバー等、宿泊をとまなわない夜間登山が増加する可能性がある</li> </ul>
	特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること	古くからの巡礼路としてルートが特定されている吉田口登山道における山麓からの登山者の割合	吉田	5.6%	7.5%	9.60%	15%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>山麓からの登拝啓発を含む動画による広報</li> <li>馬返からの伝統的な登山の神聖さをPR</li> <li>中の茶屋(休憩所)のおもてなしを周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれも計画期間を通じて横ばい傾向。</li> <li>伝統的な登山ルートならではの魅力が伝わるよう「山麓の神社・霊地等とのつながり」とともに啓発を強化していく必要がある。</li> </ul>
	山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること	山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士登山をする文化的伝統を知っている登山者の割合	全体	41.9%	42.5%	38.60%	50%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>山麓や五合目施設等での神社・湖を巡る伝統的な巡拝の啓発を含む動画による広報</li> <li>世界遺産巡りガイドマップ(日・英版)の配布</li> </ul>	
		富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	全体	88.3%	86.6%	88.20%	90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食・ゴミのマナー啓発</li> <li>御庭、奥庭、御中道の散策ガイドンス促進</li> </ul>	
登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持	浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること	五合目以上における登山道の浸食や植生等の変化による展望景観の変化	全体	なし	なし	なし	負の影響が予見又は確認されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下山道の巡視と維持管理</li> <li>富士山レンジャー等による啓発活動を継続</li> </ul>	
登山の安全性・快適性の確保	登山装備・登山マナー等が理解されていること	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者の割合	全体	17.6%	14.0%	29.0%	15%以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>Twitter等による呼掛け</li> <li>安全誘導員や富士山レンジャー等の巡視強化</li> <li>売店・山小屋の協力による注意喚起</li> <li>お盆等の混雑日における外国人へ周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報弱者(外国人など)へのマナー周知を、きめ細やかに実施していく必要がある</li> </ul>
	過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること	山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者の割合	全体	10.0%	12.6%	13.9%	15%以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>保全協力金を利用したトイレの改善(※山小屋とトイレの不満を感じた割合のうち、不満度が高い方の数値を記載)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力金を活用したバイオトイレの整備や、コロナ期に山小屋の個室化を行った結果、衛生面で不満を感じる登山者は減少傾向にある</li> </ul>
		夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日* *吉田口:4,000人/日 富士宮口:2,000人/日	吉田 富士宮	0日 0日	0日 0日	0日 0日	3日以下 2日以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>混雑動画の作成(令和元年度～)</li> <li>混雑予想カレンダーの更新(H29～)</li> <li>カレンダーや動画のHP・SNS掲載による混雑日の日程変更促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>混雑カレンダー・動画を見て、混雑を回避する登山計画を立てる者も一定数おり、現状の取り組みを継続していく必要がある</li> <li>計画期間を通じて水準を達成しているが、これを維持するためには、増加が見込まれる外国人登山者への対応が必要である</li> </ul>